

コメント

- ・ 28 ページ、2 行目

「逆に販売促進費や広告費が大きなウェイトを占めている。」

⇒「逆に販売促進費やマーケティング費が大きなウェイトを占めている。」

- ・ 43 ページ、下から 11 行目

「リピート率が全体平均よりを下回った」

⇒「リピート率が全体平均を下回った」

- ・ 56～57 ページ

「第一四分位数」、「第二四分位数」、「第三四分位数」

⇒「第 1 四分位数」、「第 2 四分位数」、「第 3 四分位数」

- ・ 57 ページ、下から 9 行目

「 $IQR = Q_3 - Q_1$ を四分位範囲偏差と呼ぶが、」

⇒「 $IQR = Q_3 - Q_1$ を四分位範囲と呼ぶが、」

- ・ 57 ページ、下から 7 行目

「箱の上下に伸びている点線~~の~~で描かれた部分」

⇒「箱の上下に伸びている点線で描かれた部分」

- ・ 72 ページ、6 行目

「 $Y = a_1 * X_1 + a_2 * X_2 + \dots + a_5 * X_5$ 」

⇒「 $Y = a_1 \times X_1 + a_2 \times X_2 + \dots + a_5 \times X_5$ 」

- ・ 76 ページ、下から 6 行目

「群馬を除く関東 6 県や、(狭義の) 関西地方 5 県のうち 4 県が C 色のグループである。」

⇒「群馬を除く関東 1 都 5 県や、近畿地方のうち 2 府 2 県が C 色のグループである。」

- ・ 78 ページ、2 行目

「都会度と自分のための活動には強い負の相関があった。」

⇒「都会度と第一主成分には強い負の相関があった。」

- ・ 78 ページ、4 行目

「第一主成分の向きは負の方向であるので都会度が高くなると第 1 主成分が表している自分のための活動の時間が多くなることを意味している。」

⇒「**「自分のための活動」の項目が第一主成分の負の方向にあるので自分のための活動の時間が多くなることを意味している。**」

・80 ページ、下から 8 行目

「都道府県ごとの色分けは**主成分分析の時に用いていた**都会度ランキングが上記 10 位の都道府県を」

⇒「都道府県ごとの色分けは都会度ランキングが上記 10 位の都道府県を」

・84 ページ、下から 5 行目

「2 次元データ**を** 1 次元データへの縮約」

⇒「2 次元データ**から** 1 次元データへの縮約」

・86 ページ、7 行目

「第 $k-1$ 主成分までで決まる方向と垂直になる方向の超平面（**元のデータの次元より 1 次元だけ低い部分空間**）の中で、」

⇒「第 $k-1$ 主成分までで決まる方向と垂直になる方向の超平面（**元のデータより次元の低い部分空間**）の中で、」または括弧部分を削除

・86 ページ、10 行目

「第 k 得点（スコア）」⇒「第 k **主成分**得点（スコア）」

・89 ページ、下から 4 行目

「国語・英語・社会の**固有ベクトル**符号が正である」

⇒「国語・英語・社会の符号が正である」

・90 ページ、下から 4 行目

「数字**は** 20 人それぞれの第 1 主成分得点・第 2 主成分得点がプロットされている。」

⇒「数字**で** 20 人それぞれの第 1 主成分得点・第 2 主成分得点がプロットされている。」

・116 ページ、下から 2 行目

「depth**t** を 1 にしている」⇒「depth を 1 にしている」

・136 ページ、5 行目

「この値は 0～1 の範囲をとり、」⇒「この値は**基本的には** 0～1 の範囲をとり、」

・ 151 ページ、12 行目

「選択肢を作ることが可能である場合にはチェックボックスを使うことをお勧めする。」

⇒「選択肢を作ることが可能である場合にはラジオボタンやチェックボックスを使うことをお勧めする。」

・ 158 ページ、5 行目

「3 行目で glm は、」⇒「6 行目の glm は、」

・ 173 ページ、1 行目

「本章では、」⇒「本節では、」

・ 190 ページ、3 行目

「平均値は 7.78 分である。」⇒「平均値は 7.8 分である。」

・ 196 ページ、17 行目

「 $\bar{x} = (x_1 + \cdots + x_n)/n$ の背後にある分布は、平均パラメーターが μ で分散パラメーターが $\hat{\sigma}^2/n$ であるような正規分布になることが知られている。このことと、上の式(1)から、

$$P\left(-1.96 \leq \frac{\bar{x} - \mu}{\sqrt{\frac{\hat{\sigma}^2}{n}}} \leq 1.96\right) = 0.95$$

となる。」

⇒「 n が十分に大きい場合には、 $\bar{x} = (x_1 + \cdots + x_n)/n$ に関して

$$P\left(-1.96 \leq \frac{\bar{x} - \mu}{\sqrt{\frac{\hat{\sigma}^2}{n}}} \leq 1.96\right) = 0.95$$

となることが知られている。」

・ 197 ページ、7 行目

「データそのものの平均 $\bar{x}$ ではなく、」⇒「データそのものの平均 $\bar{x}$ ではなく、」

・ 207 ページ、図 8

上の図の味覚要素の強弱の表で、綾鷹の甘味に関する評価値

「4.16」⇒「4.16」

・ 225 ページ、7 行目

「その仮説が矛盾していることを証明し」

⇒「その仮説が正しい確率が極めて小さいことを示し」

・ 230 ページ、脚注 6

「t 分布は標本サイズが小さい時に標本平均が従う分布である。」を削除。

・ 231 ページ、4 行目

「帰無仮説のもとでの母集団分布は、」⇒「帰無仮説の下での標本平均の差の分布は、」